

「玲子さんはいやらしいアナル教師よ」

美也子は玲子のマンションのエレベータ内でパンティを脱ぐように命令した。

「命令されるほうが好き…あなたの命令どおりに脱ぐわ」

玲子はスカートをたくし上げ、臀部にはりつくパンティをさげる。美也子は脱がせたパンティをエレベーターの床に放り投げた。

「スカートは腰までまくったままよ」

「美也子さんはわたしの女王様になってくれるのね」

「あなたの女王様にもそしてあなたのレズメイトにも…あなたの牝奴隷にもなるわ。わたしたちの性愛は自由なのよ」

スカートを腰の高さまでめくり眩しいほどに白い臀部をさらしている玲子を抱きしめた美也子はキスをした。エレベーターが目的の階に到着した。キスを続けていた美也子は、早い到着だと言いたげな表情で玲子をもう一度抱きしめる。

エレベータを出た玲子は剥きだしの白い臀部を左右に揺すりながらマンションの通路を歩いた。それを後ろから眺める美也子は

「マゾ教師」

と玲子の双臀をビシッと力を込めて叩いた。叩かれた玲子は感じている様子を隠すことなく丸みを帯びた形のよい臀を左右にゆすり

「すてき」

とさらに妖しく揺すりだす。弾力に富んだ尻肉がマンションの通路で躍りだす。むきだしにした双臀を晒し、自ら破廉恥にゆすっている行為に女教師は酔うのだ。いよいよ玲子の部屋の前に来たときに

「ここで裸になりなさい」

と美也子はさらなる命令をした。玲子はその命令に従うだろうかと思踏みするように眺めると、女教師は躊躇せずに衣服を脱ぎだすのだ。全裸になった玲子は、部屋のドアを開け、中に飛び込んだ。

「ああー女王様の命令に従ったわ。お外で裸になったのよ」
呻くように言う全裸の玲子は、興奮していた。美也子の首筋に飛びつくように両手をまわすと唇を重ねる。

「産卵の惨めな姿をお見せするわ。玲子はめんどり教師だから」

美也子の目の前で双臀を突き出した玲子は熱く息を吐く。
双臀の狭間のアヌスが内側から開花し、白い殻が顔をのぞかせた。

「教え子の前でめんどり教師になっているの。本物のめんどりのように鳴きながら産卵させられるのよ」

「今は鳴かないの？」

「美也子さんの命令どおりに」

「それではめんどりになって鳴きながら卵を産みなさい」

美也子は白い殻を覗かせた玲子の尻肉を叩いた。乾いた音が部屋に響き渡る。

「コケッコー、コケッコー」

玲子はめんどりになってさらに下腹部に力を入れ、腸管の

ゆで卵を産み出そうと力む。美しい顔に赤みがさす。

やがてゆで卵は女教師の足の間にはぼとりと転がった。

「上手に産めたご褒美よ」

美也子は産卵を終えた臀丘を spanking した。何度も手を高く振り上げて玲子の尻肉に打ちおろす。玲子の吐く息は乱れ、艶やかな髪を乱しながら、叩かれる臀部をさらに高く掲げていく。

「もっと叩いて・・・お尻が真っ赤になるまで叩いてください」

spanking する美也子の吐く息も乱れ、額にはうっすらと汗がにじんでいる。玲子の尻肉はやがて熟れたトマトのように真っ赤になった。

「素敵なお尻よ。男のものを啜えこんでご奉仕する尻なのね。アナルセックスによがる玲子の姿を思い浮かべると嫉妬してしまう。レズメイトは心穏やかではなくなるわ」

美也子は憑かれたように女教師の尻肉を連続的に叩きだした。

「そんなに叩かれたら・・・終わってしまうわ・・・」

叩かれながら玲子は喘いでいる。さわさわと髪を左右に波うたせながら spanking を甘受する。美也子は玲子の分泌する蜜液のおびただしさに、性的興奮の度合いの深さを感じ、玲子の姿に触発されるように熟れた体を熱くさせていく。

玲子はやおら立ち上がると

「今度は美也子さんのお尻を虐めてあげるわ」

と美也子の衣服を脱がせにかかった。ブラウスとスカートを脱がされた美也子は、玲子に抱かれるように背中に両手をまわされ、ブラのホックをはずされた。白い豊麗な乳房がこぼれる。乳房の頂のサクランボのような乳首を口に含まれると

「ううん」

と美也子はあえいだ。電流が走ったような刺激が乳房全体に広がるのだ。玲子の舌は乳首を舐め、先端でちろちろと愛撫し美也子をよがらせる。

「感じやすいのね。熟れた淫らな体の未亡人」

クスッと笑った玲子は美也子のパンティを脱がせた。女の匂いが濃く漂う。パンティのクロッチの布地を見せられた美也子は目をそむけた。愛液で濡れたパンティを玲子は突きつけ、

「見なさいよ！美也子は淫らな牝未亡人よ」

と言葉で責める。

「今度はあなたが女王様」

美也子は床に両手を突いて、玲子の足もとにひれ伏した。そして足の指に舌を伸ばす。玲子の足を舐める美也子は臀部を媚びるように左右に振る。